

うっしっしいー情報2017

10月市



豊岡農業改良普及センター

10月11日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が97万7千円、雌が91万でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	5	0.870	868,536	8	0.785	796,905	13	824,455
篠山	3	0.924	920,160	5	0.816	828,360	8	862,785
丹波	20	0.921	957,798	10	0.836	873,612	30	929,736
朝来	7	0.967	978,171	5	0.839	953,424	12	967,860
播磨	16	0.992	974,430	14	0.867	839,391	30	911,412
美方郡	57	0.983	991,648	51	0.862	944,725	108	969,490
豊岡	20	0.992	987,174	11	0.887	938,520	31	969,910
養父	26	1.008	980,225	21	0.898	942,583	47	963,406
摂津・神戸	5	0.995	965,088	2	0.727	778,680	7	911,829
県北C	-	-	-	1	0.861	875,880	1	875,880
市場全体	159	0.977	976,578	128	0.859	910,187	287	946,968

10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	54	0.998	989,840	33	0.890	944,575	87	972,670
2	丸宮土井	34	0.963	1,000,366	22	0.858	921,240	56	969,281
	総計	159	0.977	976,578	128	0.859	910,187	287	946,968
3	芳山土井	18	1.015	945,420	18	0.870	914,340	36	929,880
4	照忠土井	17	0.929	931,849	21	0.831	869,606	38	897,452
5	千代藤土井	5	0.959	952,344	9	0.852	844,680	14	883,131

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A+	A	A	B	A	A+++
2	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+	A++
3	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+
4	照忠土井	B	A+++	A	A+	A+++	A+
5	千代藤土井	A	A+++	D	A+	A++	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成29年7月現在)

冬場に向けての管理を再確認

〇はじめに

繁殖農家にとっては、驚くような子牛価格が続いています。肥育農家は、高価格で素牛を導入していることから、今まで以上に健康でかつ、上物率がでる可能性が高い子牛が求められています。そこで今回は、健康な子牛づくりのための冬場の管理について再確認します。

〇健康な子牛は、健康な母牛管理から。

母牛の健康を維持する最低限のこととして適切な飼料給与が重要です。特に気温の低い日がつづく但馬地方では、それに合わせた飼料給与と実際に牛に採食させることが必要です。では、寒さにあわせて飼料の量はどれくらい変わるのでしょうか。

①基本的な飼料給与量を確認しましょう。

まず冬季の給与量を考える前に、基本的な飼料給与を再確認します。

- ✓ 粗飼料は5.0～5.5kg 給与していますか？
- ✓ 配合飼料で繁殖ステージ毎の調節をしていますか？ (図1)

維持期は1kg 分娩前2ヶ月 2～3kg 授乳期 3～4kg

自信の無い方は一度、計ってみてください。よくある事例として、濃厚飼料を図る入れ物が変わったことで、同じ1杯量が以前より変わっている場合があります、注意が必要です。

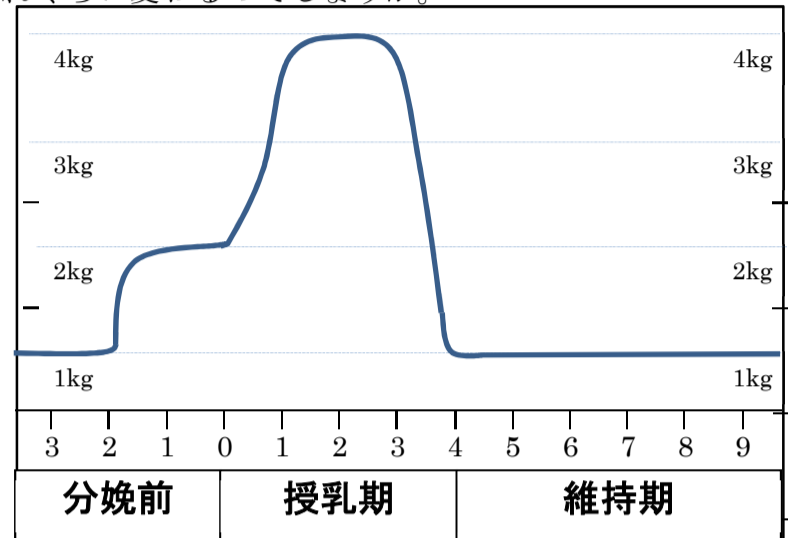


図1 配合飼料の給与量

②なぜ冬場の増飼が必要なのでしょうか。

母牛に給与されたエネルギーがどのように使われているか考えてみましょう (図2)。給与された飼料のすべてを母牛が利用できるわけではありません。

特に冬場には、①消化率が低下するためふん尿に排出されるエネルギーが増加し、利用可能なエネルギーは減少します。さらに、②体温維持などに利用するエネルギーが増加します。母体の維持に使われるエネルギー必要量は増加します。気温が5℃を下回ると、18～25℃のときと比較して必要量は、30～40%増加します。さらに、妊娠末期牛や分娩牛では、胎子の発育や母乳の生産に使われるため、冬季分娩牛への増飼が必要となりますのです。

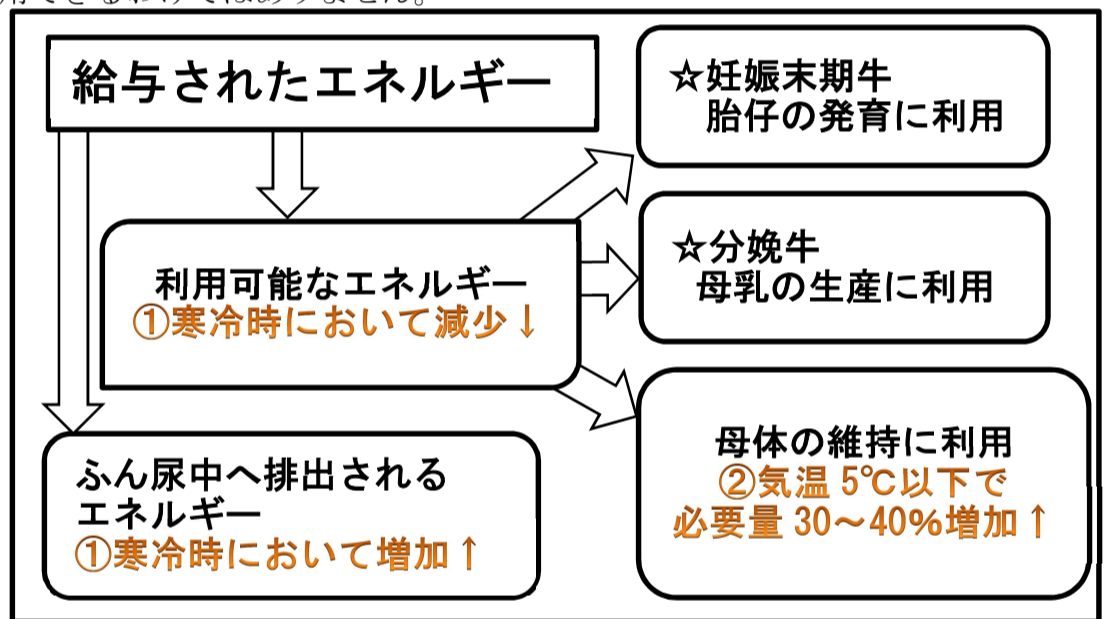


図2 給与されたエネルギーの流れ

〇冬季分娩牛の増飼を行いましょ

実際にどのくらい増給すれば良いのでしょうか？

例えば母牛の体重が400kg、維持に必要なエネルギー量は2.76kgです。維持エネルギーの寒さによる増加を30%とすると、 $2.76\text{kg} \times 30\% = 0.828\text{kg}$ となります。繁殖用の配合飼料のTDNは75%程度なので、飼料の現物量では $0.828\text{kg} \div 75\% = 1.10\text{kg}$ となり、通常より1.0kg程度の増飼が必要となります。

〇子牛に快適な環境を

子牛を健康に育てるためには、分娩前の母牛に対するワクチン接種や消毒を徹底した分娩室の準備、生まれた子牛に対する6時間以内の初乳給与、保温器具の点検と準備等する事がたくさんあります。なかでも、ベットメイクが着目されています。具体的には、保温と子牛のお腹を冷やさない観点から分娩室や、特に子牛が滞在する場所に、多量の敷料を敷き詰めようということ (写真)。



写真 敷料たっぷりの分娩室と手作りカーフハッチ

また、多頭農家を中心に子牛を早期に離乳し、手作りカーフハッチで個体管理する方もいます (図4)。

もうひとつさらに、冬場で忘れてはいけないことは、換気と隙間風対策です。アンモニアは、尿に含まれる尿素が微生物に分解されて発生します。牛舎の換気が悪いとアンモニア濃度がどんどん高まっていきます。特に、寝ている子牛は床から発生したアンモニア濃度の高い空気を吸うこととなります。もし僕が子牛だったらと思うとゾッとします。また、アンモニアは気管支にダメージを与える点でも問題です。

毎年冬はやってきます。全ての対策を施しても子牛が病気になることがあります。再度確認して早めの対策を実施して頂いたら幸いです。